

まなびい 8

最上教育事務所社会教育課 発行 【お問合せ：TEL 0233-29-1441】



令和2年を振り返り、新年を展望すると・・・

令和2年は、新型コロナの感染拡大が、人々の暮らしを根本から一変させました。国内では、学校一斉休業や東京オリ・パラの延期、三密回避のため会合や旅行も控え、不要外出自粛の生活が続きました。

最上の社会教育事業等も、中止・延期せざるを得ず、「つながりや交流」を信条とする社会教育推進担当としても、分断・孤立の状況を、なすすべ無しと、半ば諦めていました。しかし、Zoomのオンライン会議環境が徐々に整備され、集まらずしてもパソコン越しにつながる事が可能になりました。象徴的だったのは、当課の「次世代の地域づくり中核人材育成事業」(兼新庄・最上ジモト大学プログラム)という新規事業で、これは、企画役高校生一人ひとりが、「地元地域」への興味・関心をもとに、自由な発想で実践しSNS上で発信する、その企画を若い社会人コーディネーターが支援・助言するというプログラム内容です。取材動画のアップ等、SNSでの発信方法までも完全に高校生・青年たちに任せて大丈夫なのか懸念されました。しかし、このコロナ禍ゆえ、様々な制約がある中、どこまで前向きに、どんなことが、どのように工夫できるか、思い切って若い世代の発想・斬新さ・大胆さに委ねてみようということになったのです。今月の企画者会議や2月末の運営会議で、どんな取組みが発信されるのか、興味深く見守りたいものです。

今年、令和3年は、第59回最上地区生涯学習推進大会、第12回山形県社会教育研究大会と併せて、第43回全国公民館研究集会・東北地区社会教育研究大会山形大会(第66回東北地区公民館大会)を新庄市で開催する年となります。先を見通せない新型コロナの感染状況ゆえ、「未来を拓く社会教育」というテーマで開く大会、その本番に向けては、各市町村教育委員会や社会教育関係者の皆さまから多大な御協力をいただければなりません。準備期間も含め、この大会が、8市町村の「絆・つながり」をより強固にすることで、最上の社会教育はますます発展していくものと考えます。最上教育事務所といたしましても、多くの人たちとのつながりを大切に、管内市町村と一層連携を進めながら、元気なふるさとづくりをめざして参りますので、今年一年よろしくお願ひ申し上げます。

社会教育課長 柿崎 聖

最上地区総合型地域スポーツクラブミーティング 兼 経営診断&相談会



11月28日(土)スポーツクラブミーティング兼経営診断&相談会をわくわく新庄で開催し最上地区の総合型スポーツクラブの担当者、スポーツ推進員等35名が参加しました。第1部では「総合型地域スポーツクラブと中学校部活動とのかかわり」と題し、山形県スポーツ協会クラブアドバイザー榎本慎一氏に話をいただきました。部活動に関わるためにクラブと学校、保護者、指導者、自治体が連携、情報共有していくことや生徒のニーズをふまえたスポーツ環境の整備を整えクラブに出来ることは何かを考えることなど、今後の課題解決に向けて参考になりました。(写真上 榎本氏 写真下 高橋氏)



第2部では「スポーツクラブの経営資金獲得と広報力の向上について」と題し、公認スポーツプログラマーの高橋章氏に話をいただきました。市町村補助金、企業や飲食店等の協賛金募集、SNS活用、チラシの作り方を詳しく話をいただきました。また、もがみ西公園スポーツクラブの事例を発表してもらい参加者にクラブを知っていただく良い機会となりました。

最上地区第3回放課後子ども総合プラン指導者研修



12月1日、標記指導者研修会を開催しました。研修会当日は、放課後児童クラブの職員の方を中心に放課後子ども教室と放課後等デイサービス関係者、計28名の参加がありました。

東北文教大学人間科学部子ども教育学科講師の齊藤昭憲先生をお招きし、「いじめのおこらない環境づくりと適切な対応」についてお話していただきました。参加者からは、「子どもの心に寄り添い、その子を受け止めていく大切さを考えさせられました。」「君が大好きだよ光線」が何より大事だと気付きました。」といった感想が寄せられ、実りの多い研修会となりました。

いじめを考える際に、本を活用することについてもお話頂きました。以下、読み聞かせ等で御活用下さい。(文責:佐藤)

- ◎赤の他人だったら、どんなによかったか 吉野万理子著 講談社
- ◎百まいのドレス 石井桃子訳 岩波書店
- ◎きみは知らないほうがいい 岩瀬成子著 文研じゅべにーる
- ◎ブルーとオレンジ 福田隆浩著 講談社
- ◎しらんぷり 梅田俊作著 ポプラ社
- ◎わたしのせいじゃない レイフクリスチャンソン著 岩崎書店



最上地区自作視聴覚教材コンクール審査会の結果について

11月26日(木)に標記審査会を行いました。今年度は、6作品の出品がありました。紙しばい、スライド、VTR、ホームページと、多様なメディアによる教材づくりがなされ、どの作品もレベルの高いものばかりでした。結果は以下の通りです。

【学校教育部門】

<最優秀>

○萩野の歴史(地域探検から見つけた謎を解決) <スライド> 制作者:阿部智紀 氏

<入選>

○どうして密はダメなの?(プログラミングソフト「ビスケット」を使って)
<PCソフト> 制作者:阿部智紀 氏



【社会教育部門】

<最優秀>

○藁細工の歴史 ~雪国の暮らし~ <ビデオ> 制作者:西村尚也 氏

○真室川スタディツアー「伝承芸能編」オンライン <HP> 制作者:真室川町教育委員会

○「七所明神縁起」~七所明神はじまりのものがたり~

<紙しばい> 制作者:新庄市読み聞かせ連絡協議会

<優秀賞>

○太田の嘉作稲荷 <紙しばい> 制作者:読み聞かせサークル「ポケット」

事業予定

※コロナの状況により変更の場合有

- 4日(月) 御用始め
- 13日(水) 青年ファンリテーター企画者会議兼第2回高校生企画者会議 (オンライン形式)
- 14日(木) 県社会教育連絡協議会第2回理事会 (紙面開催)
- 22日(金) 県自作視聴覚教材コンクール審査会 (山形県生涯学習センター)
- 23日(土) 読育推進ネットワーク整備事業「最上地区読育推進連携講座」 (雪の里情報館)
- 28日(木) 地域学校協働活動推進員養成講座第2期 (オンライン形式)
- 29日(金) 第3回教育事務所社会教育課長等会議(県庁)



★ホームページは、リニューアルしました。

【最新版 QR コード】

最上教育事務所 社会教育課情報2020

検索

バックナンバー「まなびい8」配信中です。4~12月号もご覧ください。



社会教育事業
に関する情報を
掲載しています。

